

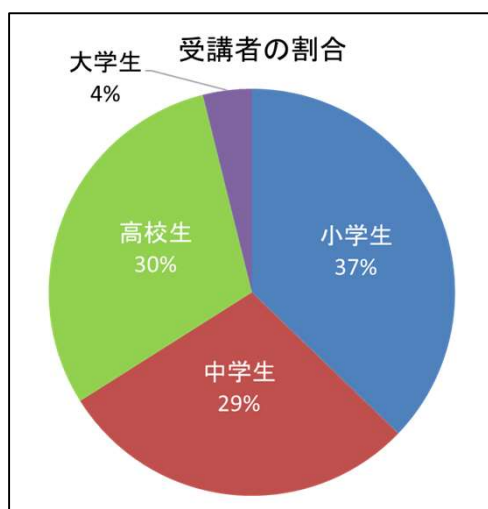
4年で、

8,599名

※2016～2019年度の受講者の合計
※開催校数は合計70校

地球温暖化問題は、遠い未来や遠い国の話ではなく、すでに影響を受けている人々がいて、日本・宮城県に住む私たちも他人事ではありません。太平洋に浮かぶ小さな島国「キリバス共和国」の文化とそこに暮らす人々の生活を通じて、私たちに何ができるのかを考えるきっかけを作るため、2016年度より宮城県内の小中学校等を対象に、日系キリバス人講師のケンタロ・オノ氏による出前講話を実施してきました。

2020年11月にはオノ氏と共に取り組んできた「気候変動最前線国キリバス共和国をテーマとした気候変動防止啓発活動」が気候変動アクション環境大臣賞を受賞しました。



令和2年度
気候変動アクション
環境大臣表彰



子どもたちに語りかける講師（2017）



たくさんの写真を見ながらの講話（2017）

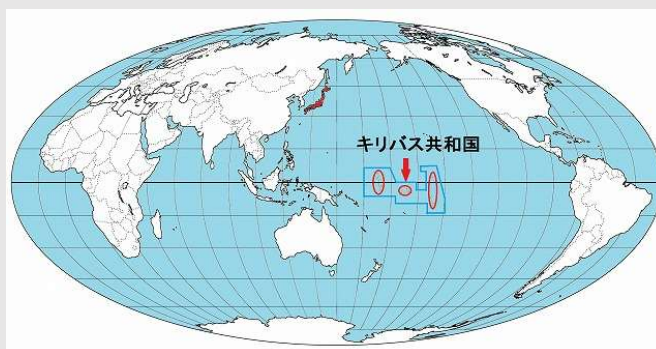


元気に手をあげる子どもたち（2020）



キリバス共和国

キリバス共和国は、太平洋のど真ん中、赤道と日付変更線の交わる地域にある、33のサンゴ礁の島々からなる常夏の国。ミクロネシア東端の豊かな文化を伝える唄踊りの盛んな大変美しい島国です。首都タラワ。人口は約11.6万人（2018年、世界銀行）。島々の平均海抜がわずか2メートル前後、幅は数百メートルしかなく、気候変動等の影響によって海水の水位が年々上がる等により、近年では存亡の危機にある国として知られるようになりました。



ご縁、必然な偶然、そしてキリバスの未来の子どもたちの故郷から皆さんへのエール



一般社団法人日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノさん

創立20周年という節目を迎えられ、関係される全ての皆さんのご尽力と熱意に心からの敬意を表したいと思います。私がストップ温暖化センターみやぎとその母体である公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの皆さんのお骨折りで、2016年度から宮城県内の学校でキリバスを題材とした環境出前講話をさせて頂く機会、協働で様々なキリバス関連のプログラムをさせて頂く機会、そして初代の宮城県ストップ温暖化大賞を頂戴するきっかけは、今思うと本当にふとしたきっかけで、そのきっかけは「必然な偶然」だったのかもしれませんが。本当に人生とご縁というのは不思議で、とても面白いものだと思うのです。

私の国、中央太平洋にあるキリバスは低海拔環礁国であるため、気候変動によって、最悪の場合2050年には人が住めなくなる可能性すら予測されている気候変動の最前線国です。今まで経験したことがないほどの海岸浸食と浸水被害、高潮、そして干ばつにも見舞われることが増えています。水資源や食料にも大きな影響が出ています。

そんなキリバスでインターネットが国内で普及したばかりの頃、「宮城県」「地球温暖化」のキーワードでネットサーフィンをしていたところ、ストップ温暖化センターみやぎの存在を知りました。心が大きく震えるほど熱く感激しました。なんとありがたく、心強く思ったことでしょうか。そしてすぐにその気持ちをメールで送りました。23歳で帰化して以来、キリバスが私の故郷です。同時に、もう一つの私の故郷は、15歳でキリバスに単身向かうまで生まれ育ち、今再移住したこの宮城です。この出会いを「必然の偶然」と言わず、なんと言うべきでしょうか！

キリバスは地球の東西南北全ての半球をまたぐ世界唯一の国です。まさに地球そのものなのです。そしてそのキリバスが、つまり地球がいま、気候変動により危機的な状況にあります。日本も今まで経験したことがないような災害が増えています。熱中症もそうです。決して他人事ではないのです。

気候変動は私たち人間が引き起こした人災です。人災だからこそ、私たち人間が解決しないとはいけません。そして僕は人間が解決できると希望を持っています。残された時間は少ないかもしれませんが。しかし、キリバスの、そして全ての未来の子どもたちの故郷、そして彼らが当たり前の生活を当たり前に過ごせるためには、希望は決して捨てられないのです。

希望は捨てていません。それは、宮城の皆さんが一番知っているからです。先の東日本大震災という自然災害を通して、故郷を失う計り知れない心の痛み、故郷が傷つく心の辛さ。そして私の国キリバスの子どもたちは、私たちが引き起こした人災である気候変動によって、将来同じ思いをする危機にあります。

このことから、ストップ温暖化センターみやぎの運営や関わっている全ての皆さんに、心からお礼の言葉をお伝えしたいのです。それは、皆さんの熱意と活動がキリバスを、そしてこの地球を持続可能な形で次の世代に引き渡せるよう活動して下さっているからです。

気候変動は、このままでは取り返しのつかないツケを次世代に残してしまいます。気候危機と言ってもいいでしょう。

愛の反対とは何か？愛の反対とは憎しみや恨みではなく、愛の反対とは無知と無関心です。「誰一人取り残されない」ために、一人でも多くの皆さんが、気候危機の現実を知って関心を持ち、一人でも多くの皆さんが行動に移すという愛です。その愛の架け橋をストップ温暖化センターみやぎが担っているのです。

僕は、そしてキリバスの未来の子どもたちは、皆さんの愛に希望を持っています。皆さんの愛を信じています。キリバスのお守りであるTe mauri, te raoi, te tabomoa（祝福・平和・健康）が常に皆さんと共にあることをお祈りしています。